

# 九手連広報紙

## はっけん

2013. 5月号

### 【第 32 回

#### 宮崎県手話サークル連絡協議会研修会】

1 月 20 日(日)に清武町文化会館において、県サ連研修会が聞かれました。

午前の講演では、NHK E テレ『手話ニュース』のニュースキャスター那須英彰氏より『手話表現と翻訳技術のワークショップ』のテーマで講演をいただきました。

言葉をそのまま手話に換えるのではなく、状況に合わせて喜怒哀楽の感情の表現(表情)や、手話のリズム、強弱をつけることで、ろう者にもわかりやすい手話になることを説明されました。『津軽海峡冬景色』、『蛍の光』の歌詞を那須氏が手話表現すると、会場から感動の拍手が沸き起こるほど参加者は魅了されっぱなしでした。

午後は『ニュースポーツを楽しもう』のテーマで、輪投げやポケットボールなど 5 つのゲームを参加者全員で楽しみました。ゲーム中の手話が弾み、手話は言語であること、手話のすばらしさを実感する 1 日の研修会でした。

### 【第 41 回宮崎県耳の日記念大会】

3 月 3 日(日)日向市にて耳の日記念大会が開催されました。

オープニングセレモニーで、日向手話サークル、手話受講生による手話コーラス『上を向いて歩こう』が披露され、第 1 部の式典の後、第 2 部では県内各地域代表 5 名の

意見発表があり、そして記念講演は、手話民話でお馴染みの宮城県仙台市在住の半澤啓子氏の『手話と共に生きる「絆』』と題しての講演がありました。

[コーダ]の立場で聞こえない両親から手話を身につけた幼少期から現在に至るまでのお話は魅力あふれる手話表現でユーモアたっぷりの楽しい内容でした。

その後、アトラクションでは日向市職員による『日向ひょっとこ踊り』が披露され、コミカルなおどりに会場が沸き、景品の抽選会ありで盛り上がり、次回開催地へ引継ぎ閉会とおりました。とても充実した楽しい時間を過ごし感動しました。

都城手話サークル 平野 敏江

### 【第 53 回佐賀県耳の日記念の集い】

3 月 17 日〔日〕、大陸への玄関口“佐賀県唐津市“に於いて『第 53 回 耳の日記念の集い』が行われました。



「耳の日」とは、耳の保健を促す意味で「みみ」と発音する「3月3日」を「耳の日」と提唱して、全国的に運動がくり広げられたものであり、ヘレンケラー女史とサリバン先生が初めて出会った日も「3月3日」。電話機の発明者アレキサンダー・グラハム・ベル氏の誕生日も「3月3日」と言われていることが「耳の日」行事の由来だそうです。

今年の『耳の日記念の集い』は、唐津市相知交流文化センターで行われ、233名が集いました。来賓に県障害福祉課長の宮原様と唐津市長の坂井様をお招きし開催されました。手話のできる市長は魅力的でした！

まず唐津市のゆるキャラ〈唐ワンくん〉による“唐ワン体操”。会場の皆さんが総立ちとなり、ちょっとおとぼけなく唐ワンくんと一緒に“唐ワン体操”を楽しみました。

次に、日本語に興味を持っていて、独学で日本語を習得したという、オランダ(ゴード)生まれの《ウォータ・ティルン》氏による「オランダのろう者から見た日本」と題しての講演。

講演の中での“日本とオランダの文化の違い”でオランダの国の事が分かり、改めて日本の国の良さを知ることができました。

オランダでは、初の【ろう学校】が1790年に創立されたとの事、日本よりもかなり早かったんですね。



アトラクションⅡは、地元の〈日本皿回し協会〉による皿回し。

あの皿回しに、LEDが使っており、すごく綺麗でした！ 皿回しをされている方の素人ぶりのコメントが空気を和ませて下さ

ってましたね。

アトラクションⅢでは、5年前の続編《スーパーデフマン2 対決！！》の上映。誰もが期待していたのではないのでしょうか。次々に展開されていったのが面白かったし、キャストもすごかったし、撮影場所などスケールが大きく、見応えがありました！

「つづく」だったので、“パート3”が楽しみです！

来年の『耳の日記念の集い』は、佐賀市、再来年は伊万里市、と続きます。各地の聴覚障害者協会と手話の会の協力の下、さまざまな情報の交換・共有、聴覚障害者の福祉向上・明るい生活形成につながっていくよう、社会に啓発運動を続けていきたいと思います！

### 【懐かしい場所でも】

「第31回手話で話そう県民の集い」が、鹿児島ろう学校で開かれました。370名の参加で大盛況でした。懐かしい場所でもあり、2年後には移転することが決まっているという事情もあってか、例年に比べて聴障者の参加が多かったようです。

式典の後、みんなが心待ちしていたモンキー高野さんの記念講演に移りました。

午前中は、「海外体験 地球の歩き方 インド編」というテーマで、日本の常識では考えられないような慣習、国民性などが、豊かな手話・身体表現で伝えられました。

午後は、ミニパフォーマンズとして、ろう者と聴者の手話コミュニケーションのずれ、有名人や前日に会ったばかりの県聴協役員の人まねなどが、これまた豊かな表現で伝えられて観衆を魅了。あっという間に予定の時間が終わりました。

その後、手話歌、手話ダンス、エイサー太鼓のアトラクションを楽しみ、感動の中で有意義な「集い」を締めくくりました。

出森 俊郎

### 【第44回耳の日福祉大会 in 大村】

3月3日(日) シーハット大村 さくらホールで200人を超える方が参加し盛大に行われました。

記念講演のテーマは「障害がある人も共に

生きるくまもと条例」

講師は、九州聴覚障害者団体連合会理事長松永朗 氏でした。

条例とはどんなものなのか、差別とはどういうものなのか、身近な事例（弁当・病院のインターホンなど）を引用して話しされ、普段何気なく生活しているなかにも、立場が違えば多くの差別がある事を改めて分かりました。

長崎県でも当事者団体と県議員による委員会を構成し、平成25年4月からの施行を目指して条例作りを進めています。県民のみなさんへの広報活動は、まだまだ進んでいないと思います。障害がある人もない人も共に楽しく生きる社会が実現出来るように、私たちも協力して行きたいと思いました。



アトラクションは、今村彩子氏のドキュメンタリー映画「音のない 3.11」の上映。大村支部・サークル会員によるフラダンスの披露。福引もあり、楽しい時間を過ごすし、なかなか会えない手話の仲間とも、久しぶりに逢う事ができて、とても充実した一日でした。

### 【大分県手話研修会に参加して】

第39回大分県手話研修会が平成24年12月8日（土）・9日（日）の2日間湯布院自然の家、ゆふの丘プラザで開催されました。大分県聴覚障害者協会、大分県手話サークル連絡協議会、大分県手話通訳問題研究会の3団体から実行委員を選出して実行委員会をたちあげ準備を進めてきました。開催の目的は手話を学習している健聴者及び聴覚障害者が一堂に会し、手話を取り巻

く諸問題の研修を深めると共に相互の交流を図ることを目的としています。初日の8日は13時から受付開始して14:30分から「珈琲とエンピツ」という映画の上映会がありました。ろう者の今村彩子監督の作品であり、静岡でサーファー&ハワイアン雑貨の店長であるろう者の太田さんがお客さんと会話のきっかけに、自ら愛飲するハワイの珈琲をサービスする。まず珈琲を入れジェスチャーで勧める。そして紙とエンピツで筆談を始める、それから筆談だけでなく声をだして大きな身振りと豊かな表現で人なつっこく話しかける。これが太田さんとお客様とのコミュニケーションの方法です。上映会が終わり映画見た感想や想いをみんな語りあえるように、テーマは「今 私たちにできること～お互いにわかり合えるために～」をテーマとして皆で考え・皆で意見を出し合い交流学习会を行いました。これでいったん研修は終わりです。夕食をとりその後食堂で研修会参加者がグループごとに分れ会話をしながら飲んだり食べたり楽しく大いに盛り上がり交流することができました。スタッフの皆さんいろいろ準備等大変だったと思いますがありがとうございました。そして二日酔いの人もいるとなかで2日目の研修会が始まりました。2日目は各3団体が担当で分科会を行いました。第1分科会は聴覚障害者協会が担当で「手話の学校 1時限目～ホームルーム」のテーマで聴障者と触れ合い、手話の表現を学び、聴障者のおかれている現状を知るために知識や学習を深めました。第2分科会は大分県手話通訳問題研究会の担当で、「災害関連の通訳、おまけ・手話語り」をテーマで近年多い自然災害。その時聴覚障害者の情報保障は？また手話通訳に関する私達の初期活動は？災害マニュアルに基づいてそれらを共に学びました。第3分科会は大分県手話サークル連絡協議会の担当で、「サークルについて『ホンネで語ろう』『聴覚障害者とおしゃべりしましょう』」をテーマに手話サークルの現状と課題について自分たちのサークルの状況や課題について意見を出し合い論議をしました。その後休憩をはさんで全体会では各分科会の内容を報

告し2日間の研修会が終わりました。久しぶりの1泊2日で楽しく充実した研修と交流ができました。スタッフの皆様大変ご苦労さまでした。

宇佐市手話サークルふれあい 松本 年明

### 【次のステップへの実りある研修】

3月24日(日)に大分県聴覚障害者センターにて、大分県手話通訳認定試験事前研修会が開催されました。この研修会は、大分県手話サークル連絡協議会より申し入れを行い、大分県聴覚障害者協会のご厚意により実現したものです。



県内手話サークルから42名のたくさんの参加者があり、みんな真剣に受講していました。

講師は、河野先生と甲斐先生で受講者の緊張感を和らげるため、ユーモアを交えて優しくそしてわかりやすくご指導いただきました。ありがとうございました。

午前中は、手話認定試験の概要、心構えなどについての説明の後、別室で一人ひとりがテープを聞いての手話表現をする実技がありました。地名や単語がうまく表現できない、手話表現が遅れるなど自分の勉強不足を感じました。

午後からは、模擬筆記試験でしたが、三択ではなく、「ことば」を記入、回答であるため、暗記力が薄れている高齢者には、難しい問題ばかりでした。先生からは、日聴新聞、豊の国新聞、ボランティアの手引きなどを読むこと。新聞を読むことなどの助言がありました。

手話読み取りでは、画面を見ながら筆記することのむずかしさを痛感しました。

まだまだ手話技術が未熟な私ですが、次のステップへの実りある研修となりました。

日田手話サークルあさぎり 川浪 勉

### 編集後記

この度は、発行が遅くなりましたこと心よりお詫び申し上げます。大変早くから頂いていた記事が情報として遅いものになりましたこと本当に申し訳ありませんでした。

さて、皆さんは、定期健診を受けていますか? 「私は大丈夫!」と思っているあなた、しっかりと検査をしてもらいましょう!! 早期に発見できると完治する病気も多いです。健康あつての人生です。いつまでも、皆さんと笑ってお会いしたいじゃ、あ〜りませんか♪

私自身は先日、定期健診を受けメタボ傾向を除けば…健康でした(^\_-)☆

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和34-2

森 保夫

発行責任者: 中元 教博

広報担当者: 武原 孝司 (大分)

発行年月日: 平成25年5月31日